

	ご意見の内容	理由	事務局からの回答・補足
資料3について	<p>・①需要の把握、②財源の確保となっているが、「跡地利活用基本構想」いわゆる「ビジョン」の中で「住民の助けとなる機能や住民に便利な機能などを有する施設を配置する」としながら、住民の福利の要素は、ワンストップ窓口や多目的ホール、図書館施設他に切り縮められ、「こどもの居場所」は出てくるものの、<u>地域住人の居場所、憩いの場が入ってないことの検討すらできない。</u></p> <p>・何が最低限必要なのかをまず検討すべきであり、この方式では連携しようとする企業が内容の検討をすることになりかねない。</p> <p>・その為の優先順位のアンケートの中に、<u>行政(区)の出してきた案にその都度「居場所」がないことを指摘、抗議してきたものがいまだ反映されない可能性がある。</u></p>	<p>・地域住民の憩いの場について、旧センターには簡宿での生活空間の狭さから憩いの場・居場所が必要であり、その機能を担ってきた。このことは、検討会議のことから認められてきたはずである。</p> <p>・大阪市・西成区の「旧機能は小学校跡地と新労働施設に移転済み」との考えには承服できない。</p> <p>・あいりん地域内、西成区内のアンケート調査が細かく行われなければならない。</p> <p>・これまでの地域への施策で足りなかったものまで「新事業」あつかいするのは無責任である。</p>	<p>・お示しいただいた「地域住人の居場所、憩いの場」は、いわゆる「おっちゃん」の居場所と近いものと理解されるところですが、この機能については、従前からご説明をさせていただいているとおり、今後、福利・にぎわい検討会議や就労福祉・健康専門部会において検討を重ねていくこととなります。</p> <p>＜参考：第14回あいりん地域まちづくり会議(R3.7.7)区役所説明抜粋＞</p> <p>・いわゆる「おっちゃん」たちを含む市民、区民利用施設ということでありましたら、福利機能を持つ施設ということになるでしょうから、福利にぎわいゾーンでの検討になるのかなと思いますし、もう一つの考え方として、例えば、福祉的な課題を持った「おっちゃん」たち、こういった方の居場所という観点でございましたら、それは福利というよりは福祉的な施策の範疇であるかなと思いますので、そういった課題につきましては、例えば、エリアマネジメント協議会就労福祉・健康専門部会などの場所で引き続き検討をさせていただければと思っております。</p>

<p>・<u>企業を守るために内容を秘匿する旨が西成区から宣言されているが、この結果が明らかになっていない。</u></p>		<p>・いわゆるマーケットサウンディングのことかと推察いたしますが、結果については、今後、公開をしてみたいと思います。しかし、企業を守るためではなく、秘匿を約束することで、企業側からの柔軟な情報提供を促すという趣旨のもと、いわゆるノウハウなどの秘匿すべき情報については、公開することができませんので、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。</p>
<p>① 需要の把握について</p> <p>・地域の住民(生活者)の需要に応える機能については、今までも様々な意見や提案が出されている。一方で、今後この地域にどんな人々を呼び込むのか、そのためどんな機能が必要かについては、未だに焦点が定まっていないと感じる。</p> <p>・特に「ワンストップ窓口」について、大阪市は既存の施設や窓口を継続利用するとしていて、利用者の利便性や、私たちが提案する新しい取り組みにも否定的である。「住民の福利」の大きな柱を失うことになるので、大阪市の積極的な参加を強く望む。</p>	<p>①需要の把握について</p> <p>・私たちは、すでに地域で生活している「住民」にとどまらず、これまでの釜ヶ崎の歴史がそうであったように、今後も様々な理由で生活困窮状態であったり、生きづらさに苦しむ人々を、この地域全体で積極的に受けとめていきたいと思っている。</p> <p>・そのためにも、労働エリアとの連携を含めた生活支援や就労支援、公的福祉に資する対応が出来る機能を持つ「ワンストップ窓口」を始め、利用者が気兼ねなく来所でき、安心して過ごせる構造物や空間が生み出されることを願っている。</p> <p>・行政の実施機関や専門窓口が、地域の民間支援施設や団体の窓口と同じ場所や隣接していれば、「ワンストップ」で様々な課題に即座に対応出</p>	<p>・「ワンストップ相談窓口」の検討については、地域のご意見を踏まえて、引き続き、就労福祉・健康専門部会において検討していくこととしており、提案いただく「新しい取り組み」についても、会議の場で検討をおこなってまいります。</p> <p>・なお、「既存の区役所で実施」というのは、現時点において機能整理等を行った場合における試案であり、資料4に記載しているとおおり、既存の機能の充実等の検討や、当該機能の複合化(あいりん総合センター跡地等への集約を含む)などを行い、今後、「ワンストップ相談窓口」の実現可能性やその機能などについて、検討していくこととしております。</p>

		<p>来る可能性がある。今までにない新しい機能や取り組みに挑戦することができるのが、この地域の強みだと思う。大阪市は積極的に関与するべきだと考える。</p>	
	<p>・<u>今回の「需要予測アンケート調査」の対象者は誰か？</u> 一体どんな層に調査をかけ、その需要に応えようとしているのか？</p> <p>・人口変動について、どのデータを指しているのか不明であるが、今後、あいりん総合センター跡地に展開されるエリア全体の機能の内容によって新規流入層が生まれ、それによって地域全体にも及ぶ新たな人口変動が起きると考える。</p>		<p>・新今宮駅について、①：乗り換え・通過のみ、②：乗降経験ありの2種類の利用者それぞれ約400名（計約800名）に対してWebアンケート調査を行いました。</p> <p>・人口変動にかかるご意見については、今後の議論における参考とさせていただきます。</p>
	<p>② 財源の確保</p> <p>・<u>大阪市は「旧あいりん総合センターを構成する機能等の再配置は終了</u>しており、新たな機能を生み出したり、従来からの機能を充実させたりするには、新たな財源が必要となる」また「支所・出張所等の機能も、場所や人員の確保にコストを要するため、新たな機能を生み出すことと同じとなる」と述べているが、「<u>公民連携</u>」の「公」(大阪市)の責任や主体性(大阪市としての考え)についてお聞きしたい。</p>	<p>② 財源の確保</p> <p>・旧センターの建設直後からの数十年だけでも、釜ヶ崎における福祉施策の無策や放置、失策による多くの犠牲や混乱など、行政も私たちも多くの現実を経験し学んできた。そして今、釜ヶ崎における大阪市の役割は、市営住宅と大阪社会医療センターを移設したことで「解決」し、大阪市としての役割は「終わった」つもりなのか？ まだまだ積極的にやるべきことはあるはずである。</p>	<p>・ご説明において申し上げていることは、「旧あいりん総合センターは、①：あいりん労働公共職業安定所(国所管)、②：西成労働福祉センター(大阪府所管)、③：市営萩之茶屋住宅(大阪市所管)、④：大阪社会医療センター(大阪市所管)の4つの施設で構成されていたところ、大阪市が所管する③、④の再配置は終了した。」という事実です。</p> <p>・そして、地域からのご意見等を踏まえて、必要となる機能については、その創出や充実を検討して</p>

			<p>いきますが、従来提供していなかった機能を配置し、かつ、それを安定的に運営していくためには、経費に見合った新たな財源を必要とすることも、また事実です。</p> <p>・なお、あいりん地域の特性等に鑑みて、大阪市が果たすべき役割は様々ですが、西成特区構想のもと、地域のご意見等を踏まえて、「西成区単身高齢生活保護受給者の社会的つながりづくり事業（ひと花事業）」や、「西成版サービスハブ構築・運営事業」などを実施しているところです。</p>
<p>・本年2月に開催された第5回跡地 WS において、土地利用を実現するための仕組みとして「公民連携」を前提とするとの説明があった。参加委員からの抗議を受け、その後の「第 13 回あいりん地域まちづくり会議」で紛糾して撤回され、「公民連携も含めた・・・」と訂正された。財源や手法についての理解や提言には専門的な知識を必要とする。<u>会議に参加する委員にも議論に参加できるだけの分かりやすい説明や、丁寧な資料の提示を望む。</u></p>	<p>・本年9月に資料として添付された「跡地等利活用検討調査業務委託報告書」(アルパック)を読むことによって、なぜ当然のように「公民連携」を前提とするような結論が出されたのか、その背景がわかりました。なぜこの報告書を公開した上での議論を経ずに「公民連携ありき」とされたのか理解ができません。</p>	<p>・今後とも、地域委員の皆様に対して、分かりやすく丁寧な資料の配付や説明を心掛けてまいります。</p> <p>・なお、「跡地等利活用検討調査業務委託報告書」は、本年3月末に成果物として受領したものであることを、念のため申し添えます。</p>	

<p>・跡地等の利活用検討における課題・検討内容等① <u>需要の把握(課題・視点)に「今後の人口変動等を踏 まえた需要などを把握」とあるが、具体的な話を早く 知りたい。</u></p> <p>・外国からの移住者、新たな生活困窮者層も含む簡 易宿所の利用者が視野に入れていただければと思 う。</p> <p>・<u>高齢者／生活保護受給者の人数は減少していき たろうが、大阪市の一般的な区／地域に較べると依然 支援や社会的つながりづくりは重要でありつづける</u> と 思うので、その点を配慮いただきたい。</p>	<p>・以前、水内委員による詳細な報告があったが、 詳細すぎて、議論しづらいので、議論しやすい簡 略版の資料を水内先生かその他有識者の方で作 成いただけるとありがたい。</p> <p>・また、全国的な調査結果として厚生労働省社会 福祉推進事業の「不安定な居住状態にある生活 困窮者の把握手法及び支援の在り方に関する研 究事業」の中に「派遣労働・寮生活の不安定な居 住状態にある生活困窮者」について参考となるデ ータがあったと思うので、水内先生、垣田先生から ご教示いただければありがたい。</p>	<p>・どのような形で対応できるかについて、検討させ ていただきます。</p> <p>・支援や社会的なつながりにかかるご意見につい ては、今後の議論における参考とさせていただきます。</p>
<p>・跡地等の利活用検討における課題・検討内容等① 需要の把握(検討内容)に「8月上旬より、施設利用 者(想定)を対象とした公共施設等利用ニーズなど に関する<u>アンケート調査</u>を実施する」とあるが、特にあ いりん地域内の人に対して調査が行われた様子がない。</p> <p>・大阪市の考えとして公の施設は全大阪市民に向け てという考えがあるとは思いますが、地域から委員として 参加している者も、あいりん地域を拠り所として生活し ている人たちのニーズとその変化を統計的に把握し ているわけではないので、<u>議論の妥当性を保つため</u></p>	<p>・私自身としては、まちにいる中で聞き集めた話で 「こういうニーズがある」という話をするが、そもそも 出会う人に偏りがあるだろうし、西成区が実施する アンケートの内容を知っているわけでもないので、 地域内に向けた調査も必要ではないかと思う。</p>	<p>・地域に居住されている方からの需要について は、既に地域委員の皆様からご意見を頂戴してい るため、広く定量的な指標を取る予定はございま せん。</p> <p>・なお、個別の判断を行うにあたり、定量的な指標 が必要となる場合には、ご示唆いただいたような アンケート調査も含めて、その実施手法を検討し てまいります。</p>

<p><u>にも、何らかの方法で地域内の調査を実施すべきではないか。</u></p>		
<p>②財源の確保(検討内容)【参考】に「8月上旬より、事業者(想定)を対象としたマーケットサウンディングを実施予定」とあるが、<u>現段階のマーケットサウンディングにおいては、事業者独自のアイデアを保全するため、公開できる情報は限定されることが予測される。</u></p> <p>・そうすると西成区内での情報把握とまちづくり会議での情報把握がずれてしまうことが想定されるので、このギャップを埋める工夫をしてほしい。せっかくボトムアップでこれまで進めて来たのだから、<u>たとえば委員に守秘に関する同意書をとって、積極的に情報を開示するなど検討した方が良いのではないか。</u>その他どんな方法で議論できるか、例えば有識者の範囲では知っているとか、そうしたことについても議論できるようにしてほしい。</p>	<p>・少ない経験ではあるが、公園の指定管理の分野等でサウンディングに応募したことがある。そうしたマーケットサウンディングにおいては、サウンディングの結果を行政の担当部局が内部で検討し、実際の指定管理者の募集要項につくりあげていくわけだが、西成特区構想の中においては、ずっとボトムアップ形式のまちづくり会議が検討に携わってきたので、上記の場合と異なる工夫が必要になるのではないかと感じる。</p>	<p>・マーケットサウンディングの結果については、今後、公開をしてみたい。しかし、秘匿を約束することで、企業側からの柔軟な情報提供を促すという趣旨のもと、いわゆるノウハウなどの秘匿すべき情報については、公開することができませんので、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。</p>

資料4について	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>機能ごとに検討する必要がある。</u> ・特に<u>ワンストップ窓口</u>を本当に作るつもりなら、かなりの困難が予想される。地域の実情がわかっている、ネットワークを十分に持っている人材が必要になってくると思われる。<u>単なる紹介場所では意味がない。</u> 		<ul style="list-style-type: none"> ・ご指摘のように、今後、その機能ごとにご意見をお聞きしてまいります。 ・なおワンストップ相談窓口について、就労福祉・健康専門部会にてご意見をお聞きしてまいります。
	<p>① 新設を目指す機能について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>大阪市として「にぎわい」や「地の利」などについてどう理解している、どのようにしたいのか本音をお聞きしたい。</u> 	<p>①新設を目指す機能について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「にぎわい」であるとか「地の利」と言った表現はまだまだ抽象的であり、各委員や行政も捉え方やイメージが一致していないと思われる。ここがずれたまま機能やユーザーについて検討しても、一致することはないと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大阪市としての捉え方は、「あいりん総合センター跡地等利活用にかかる基本構想（活用ビジョン）」に記載のとおりであり、より具体的なイメージは、今後、会議などを通じて、各委員の方々と行政との間で共有してまいりたいと考えております。
	<p>② <u>従来からの施設等で対応・実施する機能について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>従来のままで継続することで良いとは思わない。一つ一つの機能を検証しながら、跡地への集約も含めた再検討が必要だと考える。</u> 	<p>② 従来からの施設等で対応・実施する機能について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・従来のままで継続することが前提とされているが、これは調査を踏まえた上での行政判断であろうが、会議の場では柔軟に検討願いたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料4に記載のとおり、いわゆる「複合化」については、機能ごとの検討とは独立して、そのメリット・デメリットを十分に勘案した上で、検討してまいります。

<p>・①:新設をめざす機能について(基本的な考え方)において、「とりわけ、駅前に立地するという「地の利」をどのように活用していくのか」と書かれている。これは大阪市の公の施設としては、全大阪市民に向けたものでなくてはならず、乗降や乗り換えで新今宮駅や動物園前駅を利用している者が施設利用者の一定の重みある部分として想定される、ということをお願いしたいのではないかと思うが、こうした「<u>地の利</u>」という抽象的な表現では、なかなか率直な議論がしづらいのではないかと思う。<u>区役所で考えていることを率直に伝えた方が、議論しやすいと思う。</u></p> <p>・<u>その上で、駅利用者の新設施設の利用と、地域からの利用、そのなかでも特に社会包摂／社会参加が必要な地域の人々の利用と、折り合いがうまくつく仕組みづくりについてワークショップ等を通して進めていくことには賛成したい。</u></p>	<p>○日々、日雇労働者やホームレス生活者と話をしている。いろいろな人がいるが、たいていの方は話せばわかるし、公平性や倫理判断についても、率直に社会情勢も含めて話をするならば、合意を形成していくことは常に可能であると考えている。その場合、差しさわりのないよう考えられた抽象的な表現は、合意形成の障害物になりやすいと経験的に感じていう。</p>	<p>・大阪市としての捉え方は、「あいりん総合センター跡地等利活用にかかる基本構想(活用ビジョン)」に記載のとおりであり、より具体的なイメージは、今後、会議などを通じて、各委員の方々と行政との間で共有してまいりたいと考えております。</p>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>・「②従来からの施設等に対応・実施する機能について」に関して、公民連携で建設される施設の中の公共部分の面積が限定されてくるなかで、<u>優先順位を議論していった場合、地域の高齢者の居場所機能をあいりんシェルターにおいて充実させるという方法もありうる</u>と思う。</p> <p>・そうした方法の可否を含めて議論することもあると思うが、<u>あいりんシェルターが設置より10年の期間限定であること、制度上は日雇労働者のうち自らその日の宿泊費を支出できないものが対象となっていて、社会包摂／社会参加が必要な地域の人々は利用しづらくなっていること</u>についても、地域住民の方々とも丁寧に話し合いつつ、大阪市の各部局のなかで、横断的に議論をいただく必要があるのではないかと思う。</p>	<p>・事業費の確保について、行政の中で説明しうるものにしようとするとうちの計画に即しつづけなければならないということがあり、そうすると実際の地域の必要や地域にいる方のニーズから離れてしまうということがおこりがちである。</p> <p>・せっかくまちづくり会議というよい話し合いの場があるので、いろいろなことを話し合えるとよいだろうと思う。</p>	<p>・ご示唆いただいた内容も含めて、今後、議論を深めていきたいと思います。</p>
<p>・<u>複合化</u>については、特に若い世代にとっては、仮想的な空間と現実の空間との間をつなぐインターネット上の仕組みにより、<u>施設そのものは別であっても、一体的複合的な施設利用につながるものもある</u>ので、その点も十分に検討していただきたい。</p>	<p>・新今宮エリアブランド向上事業を、左記複合化をめぐしたものとしての広がりを作る、ヨリドコオンラインと地域にある施設（西成労働福祉センター等）との連携を拡張して考えていくなど、今後のあいりん地域の「(再)チャレンジ」も含めてトータルにイメージを提示できるようになると、複合化に資すると思う。</p>	<p>・ご示唆いただいた内容も含めて、今後、議論を深めていきたいと思います。</p>

具体的な機能に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>郵便局、銀行などの金融機関を誘致すべき</u>である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これだけの人口密集地にもかかわらず全然ないというのはおかしい。すごく不便。地元の間にも観光客にも必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・最終的には民間の金融機関の判断による部分ではありますが、可能な範囲で、ご示唆いただいた内容も含め、議論を深めていきたいと思ひます。
	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>図書館または図書室</u>(静かに読書をするというより<u>コワーキングスペース</u>として話し合いもできるような開けたものがよい。) ・<u>釜ヶ崎のアーカイブ機能</u>も持っていれば、外からの人も来るのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・開かれた図書館なら子供たちも来やすいし、人も集まると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ご示唆いただいた内容も含めて、今後、議論を深めていきたいと思ひます。
	<ul style="list-style-type: none"> ・交通の便の良いところであるから、<u>多目的オープンスペース</u>では、<u>仕事帰りの人が気軽に寄れるようなコンサート</u>などを企画して、<u>集客</u>してはどうか。(財源確保の観点) 		<ul style="list-style-type: none"> ・ご提案の内容は、多分に民間企業等の活動を含むものと思われませんが、可能な範囲で、ご示唆いただいた内容も含め、議論を深めていきたいと思ひます。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>これ以上会議体を増やすことは、地域委員にとって</u>は物理的にも精神的にも限界かと思ひます。 ・かといって、<u>新しいメンバーで始めるのは連続性に欠け、議論が別物になってしまう危険もある</u>ので、どうするか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・会議体を分ければ分けるほど、情報の共有も難しくなってきた経緯がある。一方で専門的な議論も進めなくてはならない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ご指摘いただひているようなジレンマについて、事務局としても認識しているところであり、今後とも、より良い形を模索していきたくて思ひます。